.

プログラム委員会	IAHR第一九回世界大会実行委員会	研究発表	・九月一一日(日)	懇親会	会員総会	研究発表	『宗教研究』編集委員会	評議員会	研究発表	・九月一〇日(土)	IAHR残務委員会	理事会	公開シンポジウム	開会式	各種委員会	学会賞選考委員会	・九月九日(金)	開催され、四七七名の参加者があった。	九月九日~一一日の三日間、	〇第六四回学術大会	会 報	
一四時~一五時三〇分一二時三〇分~一四時	実行委員会	九時~一二時三〇分		一八時~二〇時	一六時二〇分~一七時四〇分	一四時~一六時	一二時三〇分~一四時	一二時三〇分~一四時	九時~一二時三〇分		二〇時三〇分~二一時	一八時~二〇時三〇分	一四時四〇分~一七時四〇分	一四時三〇分~一四時四〇分	一三時~一四時三〇分	一一時三〇分~一三時		者があった。	、関西大学において以下の日程で			

研究発表	一四時~一六時
閉会式	
〇日本宗教	日本宗教学会賞選考委員会
日時	二〇〇五年九月九日(金)一一時三〇分~一三時
場 所	関西大学 第三学舎 三四〇一教室
出席者	石井研士(長)、澤井義次、塩尻和子、末木文美士、
	鈴木正崇、月本昭男、長谷部八朗
議事	
一、審査の結果、	い結果、徳田幸雄氏の以下の業績を推薦することを決
定した。	推薦理由は以下の通りである。
二〇〇五年	二〇〇五年度学会賞選考委員会報告
徳田幸雄氏	1(東北大学非常勤講師)の研究業績について
審査対象	☆『宗教学的回心研究──新島襄・清沢満之・内村鑑
	三・高山樗牛』(未來社、二〇〇五年二月刊)
本書は、	宗教学の立場から宗教的回心の研究を試みた著作で
ある。	
本書は、	第一部の理論研究と第二部の事例研究から成り、第
一部と第一	部と第二部が相互補完的に作用するよう構成されている。
第一部では、	こは、内外の主要な回心研究を広く渉猟したうえで、
従来の回心	従来の回心研究では、ほとんど議論されることのなかった回心
の宗教的側面、	國面、すなわち、回心の本質的側面を浮き彫りにしよ
うとする、	いわゆる「宗教学」の視点が提示されている。
著者は平	著者は研究の焦点を、回心の「過程」から「構造」へと移

(862) 234

を浮かび上がらせて、独自の回心研究を構築しようとする試みうとするなと、一人間存在の転換」としての宗教的回心の特質
ういこうなど、「、見る言う法律」 こうさなり こうせいいう多様な現象を「垂直軸」の概念によって立体的に把握しよ
(ディルタイ)という古典的な手法が用いられている。回心と
研究方法としては、文献資料を批判的に読み解く「解釈学」
す試みということもできる。
た同時に、著者の「宗教学」の枠組みに沿った人間理解をめざ
は第一部の理論的枠組みの実証という意味をもつが、それはま
な回心の構造を明らかにしようとする。その意味では、第二部
教(清沢満之、高山樗牛)という宗教の違いを越えた、普遍的
把握しようとしている。キリスト教(新島襄、内村鑑三)と仏
牛)に適用し、それぞれの回心を具体的なデータにもとづいて
における四人の知識人(新島襄、清沢満之、内村鑑三、高山樗
第二部では、第一部で提示された理論的枠組みを、近代日本
るのである。
され、普遍的な回心研究が成り立つ「宗教学の場」が提示され
な conversion と仏教的な「廻心」に共通する転換構造が認識
せられると強調する。こうした考察を踏まえて、キリスト教的
な受動性」ともいうべき「宗教性」によって、もっとも際立た
存在の根本的な転換に他ならない。そうした転換は「非合理的
著者によれば、回心とは質的な断絶の飛躍を伴うような人間
教学の場」を構築しようとしている。
かにするために、垂直的・科学的・道徳的の三次元による「宗
解へと進めている。著者は、最終的には「宗教的回心」を明ら
し、回心による変化の内容や固有の性質としての「本質」の理

以上、述べたように、本書はいまだ大 きな研究課題を抱えて	大きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的論述	る。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティティが	ツ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満が残	さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、ドイ	回心」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられる。	けて議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗教的	行われていない。この論点を近代日本という時代背景に位置づ	上げられたのか、その理論的根拠についても、ほとんど議論が	また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が取り	となるであろう。	といかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が必要	心」研究という個別性が、西欧的な理論的枠組みという普遍性	治という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教的回	しも必然的に結びついているとはいいがたい点もみられる。明	しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が必ず	高く評価される。	えで、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手法も	回心を一種の「絶対者への自己の明け渡し」として理解したう	と展開する著者の議論はきわめて周到かつ明解である。また、	学説の概観・整理から、仮説の提示、今後の研究の可能性へ	に十矢に評価することかてきる
	にはいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者には今	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者にはきく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的論	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者にはきく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的論。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティティ	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者にきく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者にきく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者にきく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満語らに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、心」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられる	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満この過程と構造がいっそう明確になったと考えられるて議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテさらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、心」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるで議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗われていない。この論点を近代日本という時代背景に位	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者にさらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、この著書で取り上げられた知識人の「宗われていない。この論点を近代日本という時代背景に位げられたのか、その理論的根拠についても、ほとんど議	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 で議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 おれていない。この論点を近代日本という時代背景に位 げられたのか、その理論的根拠についても、ほとんど議 また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に 。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 で議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 おれていない。この論点を近代日本という時代背景に位 げられたのか、その理論的根拠についても、ほとんど議 また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が なるであろう。	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に っさらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ っさらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ 語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満 さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 で議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 で議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 で、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 なるであろう。 はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に が	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者になるであろう。 この諸書で取り上げられたのか、その理論的根拠についても、より掘り下げた議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論がいかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論がいかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論がいかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論がいかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が	という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教」	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られて いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論 すれていない。この諸書で取り上げられた知識人の「宗 さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 であろう。 この論点を近代日本という時代背景に位 がられたのか、その理論的根拠についても、ほとんど議 また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人の「宗 であろう。 この満書で取り上げられた知識人の「宗 で、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 であっうンス語の文献を十分に参照していない点に不満 がしたるに、著者が参照した、 をの理論的根拠についても、ほとんど議 がしたるであろう。	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ で、著者が参照した著作は多く英語文献に限られる であろう。 て議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 た、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が なるであろう。 て議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 でしれていない。この論点を近代日本という時代背景に位 げられたのか、その理論的根拠についても、より掘り下げた議論が なるであろう。 にという時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教 しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が	はいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者に さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ で、、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論 なるであろう。 で、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が なるであろう。 で、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が なるであろう。 で、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が なるであろう。 で、一方の一次のかについても、より掘り下げた議論が なるであろう。 であったのが、その理論的根拠についても、ほとんど に たいかに結びついているとはいいがたい点もみられる しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が	で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料にあり、	に心を一種の「絶対者への自己の明け渡し」として理解しに心を一種の「絶対者への自己の明け渡し」として理解して、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて日本という時代背景に位がしかにおいっそう明確になったと考えられるしかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係がしかにおいたいない。この論点を近代日本という時代背景に位けられたのか、その理論的根拠についても、より掘り下げた議論がなるであろう。	「心を一種の「絶対者への自己の明け渡し」として理解しいまだ説得力を欠く部分も多い。それだけに、著者にいったうう。 「ごを一種の「絶対者への自己の明け渡し」として理解して、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて日本という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教しかにおいっているとはいいがたい点もみられるしかにおいない。この諸書で取り上げられた知識人の知識人の中で、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、この者書で取り上げられた知識人の「宗語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満また、近代日本の知識人の中で構築された「宗教」という学問的アイデンティティン、「「「「「「「「「」」」というで、「「「」、「」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるである。この、「「「「」、「」の」の過程と構造がいっていても、より掘り下げた議論がいったのか、その理論的根拠についても、ほとんど議がいったの」、「「「」、「「」、「「」、「」、」、「「」」」」という。	
の洗練化を期待したい。後、幅広く世界的な研究成果を取り込んで、その概念的枠組み		問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的論	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的論。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティティ	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、心」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられる	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、で議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテさらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、心」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるて議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗われていない。この論点を近代日本という時代背景に位	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテごらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、心」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるて議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗われていない。その理論的根拠についても、ほとんど議	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的で、での「宗教学」の概念的で、「「「「「「「「「「」」」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるで、「読いった」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるに、「「「「「「「「」」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるで、「「「」」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるで、「「「」」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるで、「「」の過程と構造がいっその理論的根拠についても、ほとんど議でした。、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテアが、の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるで議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人がなるであろう。	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人がするであろう。	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的 っさらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ 語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満 さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的 っさらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ 語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満 さらに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 で議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 なるであろう。	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的で、いかに結びついているとはいいがたい点もみられるであろう。この満たの知識人の中から、なぜ四人の知識人の「いかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が なるであろう。この諸書で取り上げられた知識人の「宗語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満 いない。この諸書で取り上げられた知識人の「宗語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満 いるに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られ、 この記録がのです。 きらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ 語やフランス語の文献を十分に参照していない点もみられる いかに結びついているとはいいがたい点もみられる いかいかいにはびついているとはいいがたい点もみられる いかいがかいたい (いかにに (宗教学) という (宗教学)の概念的 () () () () () () () () () () () () ()	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が しかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論が なるであろう。 この諸書で取り上げられた知識人の「宗 で議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗 た、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が するであろう。 にという時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教 しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ語やフランス語の文献を十分に参照していない点に不満また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人がいかに結びつくのかについても、より掘り下げた議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗で、「「「「「「「「「「「「「」」」で、この「「「「」」で、この「「「」」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるであろう。 この一個別性が、西欧的な理論的枠組みとの関係がいた。 この一個別性が、西欧的な理論的枠組みとの関係がいた。 この一個別性が、西欧的な理論的枠組みとの関係がいた。 に、「「「「」」」で、「「「「」」」」」」の しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教」の一次という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるであろう。 て議論すれば、この著書で取り上げられた知識人の「宗で、その事例を著作や手記資料に基づいていない。この論点を近代日本という時代背景に位けられた知識人の「宗で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテで、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手で、その事例を著作や手記資料に基づいて日本という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教」の過程と構造がいっそう明確になったと考えられるなるであろう。	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的 。さらに今日、「宗教学」という学問的アイデンティテ で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 で、その事例を著作や手記資料に基づいて した で、者都参照した で いかに おひつくのかについて も、より 掘り 下げた 議論 が に た た の に た る に た る に た る に た る に た る に た の に の に つ い て い る に た の に の い て い る に る の に の い て い て い て い た る に る の に の に つ い て い て い た る に る の に の い て い て に る の に の に の に の い て り た に た ろ の に の の に の い て い た に た う の に た の に た い た い た の 言 に た の に た い た い た い た の に た の に た い た い た い た の 言 に た の に た い た い た い た の に た の に た い た い た い た の た の に た り に た の の に し た の の に の の に の い て り た た う 。 の の の に の の に る の に の つ い て り に の に の の の の の に の の の の に の い て い ち の の の の に の の に の い て い た の に の う で の た う に し つ に た の に の う の の に の し に の の の の に の の の の に の に つ い て の の た の の の し の の に の つ の の の の の の の の に の の の の の の	きく問われている中で、著者のいう「宗教学」の概念的 ことに、著者が参照した著作は多く英語文献に限られる で、その事例を著作や手記資料に基づいて丹念に扱う手 になったのか、その理論的根拠についても、ほとんど議 また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人が にという時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教 という時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教 こ」研究という個別性が、西欧的な理論的枠組みとの関係が しかしながら同時に、西欧的な理論的枠組みとの関係が にという時代背景や社会的文脈の中で構築された「宗教 こ」研究という個別性が、西欧的な理論的枠組みとの関係が にたれたのか、その理論的根拠についても、ほとんど議 また、近代日本の知識人の中から、なぜ四人の知識人の「宗 で、著者が参照した著作は多く英語文献に限られる によういない。この論点を近代日本という時代背景に位 で、著者が参照した著作は多く英語文献に限られる に、著者が参照した著作は多く英語文献に限られる であるう。

会 |

-様々な境界への挑戦(Religion and Society: Chal-

はいるが、回心研究の分野に新たな地平を拓いたことを評価はいるが、回心研究の分野に新たな地平を拓いたことを評価はいるが、回心研究の分野に新たな地平を拓いたことを評価はいるが、回心研究の分野に新たな地平を拓いたことを評価の広く、三〇〇五年九月九日(金)一三時~一四時三〇分場 所 関西大学 第三学舎 三三〇一教室 中弘 お 調 中弘 二、改革諸案についての検討
中弘 櫻井治男、鈴木岩弓、田島照久(長)、星野英紀、
一、改革諸案についての検討
評議員会は、具体的な問題点を議論する場とする。
二、学術大会に関する諸問題の確認と検討
①特別テーマ部会と個人発表への申込は、次年度以降も、申込
締切時点で、発表資格を有する会員とする。
②大会参加規定について
・発言権は、発表資格を有する会員(名誉・維持・普通会員)
のみに認める。
・次年度以降、自由テーマパネルに参加することになった非会
員については、参加する自由テーマパネル以外での発言を認
めない。参加費、懇親会費は会員と同額とする。
三、『宗教研究』データベースについて
情報化委員会より以下の報告があり、了承した。税法上の問
題や検索精度の点から販売が困難であるため、暫定的措置と
して、DVDの形で、会員限定で先着順に無料配布すること

○名への配布が可能である。取得方法の告知は、『宗教研究』
や学会ホームーページで行う予定である。
○国際委員会
日 時 二〇〇五年九月九日(金)一三時~一四時一〇分
場所 関西大学 第三学舎 三三〇二教室
出席者 池澤優、市川裕、小田淑子(長)、澤井義次、嶋田義
仁、渡辺学
議 事
一、外国人研究者(非会員)の自由テーマパネル参加について
次年度大会から、パネル代表者の責任において、非会員の外
国人研究者を一名に限りパネルに加えることができるが、日
本に留学中の外国人大学院生(非会員)のパネル参加について
は、今後の検討を要する。外国語でパネルを行うことについ
ては、参加者に理解できるように通訳や日本語要旨などの配
慮や手当てが条件となるが、前向きに検討していく。これら
は本学会の一層の国際化を促進することを目的としており、
その他の可能な方法も検討する方針である。
二、第二八回ISSR/SISR(国際宗教社会学会)ザグレ
ブ大会について
田島忠篤委員より書面にて報告があった。七月一八日~二二
日にザグレブ大学において開催された。テーマは「宗教と社

236 (864)

果、今年度の予算の内、三〇万円をこの費用にあてると六〇 を検討している。DVDの作成等にかかる費用を概算した結 会 報

二、鎌田繁、河東仁、川村邦光、氣多雅子、小坂国、鎌部門・「オコピー」と日記:「カ国祭」、「あう新
越愛子、大村英玿、小田淑子、加藤智見、金井新
優、石井研士、市川裕、井上順孝、宇都宮輝夫、大
出席者 芦名定道、安蘇谷正彦、安達義弘、池上良正、池澤
場所、関西大学第三学舎第二会議室
日 時 二〇〇五年九月九日(金)一八時~二〇時三〇分
〇理事会
を持つことについて検討した。
ホームページの充実をはかるために、学会で独自のサーバー
二、ホームページについて
会員のうちの希望者に無料で配布する方針を確認した。
作製した画像データ、書誌データの双方をDVDに収録し、
一、『宗教研究』データベースについて
議事
出席者 石井研士、櫻井義秀、中村生雄(長)、吉永進一
場所 関西大学 第三学舎 三三〇三教室
日 時 二〇〇五年九月九日(金)一三時~一四時三〇分
〇情報化委員会
開催されるが、詳細は来年二月の同学会理事会で決定する。
大会は二〇〇七年八月初旬にドイツ・ライプツィッヒ大学で
樫尾直樹、佐々充昭、藤野陽平、立田由紀恵の八氏。次回の
者は田島委員と、中野毅、嶋田義仁、弓山達也、奥山倫明、
lenging Boundaries)」。全参加者二八二名の内、日本人参加

					•				•	<u> </u>													
学の一〇氏。	、池澤優、市川裕、宇都宮輝夫、	使用するにあたり、残務委員会を発足したことが報告され、	報告書の作成と発送、大会記録の作成等の残務処理費として	島薗会長より、上記の会計報告にある未使用分を募金者への	・IAHR残務委員会について	池澤財務委員より同大会の収入、支出が報告された。	された。鶴岡プログラム委員より大会の参加者関連データ	員会において同大会実施に関わる活動は終了となる旨、報	・島薗実行委員長より、九月二七日の日本学術会議内の組織委	二、IAHR第一九回世界大会終了後の経過報告	の予算案が提出され、承認された。(別記参照)	鈴木庶務委員より、二〇〇四年度の決算報告と二〇〇五年	一、会計報告	議事	辺学、(オブザーバー)宮家準	志、松村一男、三友健容、宮崎賢太郎、山中弘、	麿、林淳、藤田正勝、星川啓慈、星野英紀、細忩	西山茂、長谷正當、長谷部八朗、花岡永子、華園	屋博、鶴岡賀雄、中野毅、中村生雄、中村廣治郎、	信良、高橋渉、田島照久、対馬路人、津城寛文、	弓、鈴木正崇、ポール・スワンソン、薗田坦、亰	進、下田正弘、白山芳太郎、末木文美士、鈴木	継、櫻井治男、佐藤憲昭、澤井義次、島岩、良
渡 辺	氣多雅	a n	として	百への			ータ、	報告	組織委)五年度				弘、渡	細谷昌	華園聰	冶郎、	义 土	高田	虾 木岩	島薗

237 (865)

説明があった。

.

•

たことが島薗会長より報告され、承認された。
任期終了の関一敏氏に代わって、樫尾直樹氏に委員を委嘱し
(5)編集委員の交代
引き続き、多くの論文投稿があることを希望している。
(4)編集委員会(松村委員長)
検索できるよう学会独自のサーバーの設置が必要になる。
員に配布することを検討している。将来的には自由に閲覧、
『宗教研究』の画像・書誌データをDVDとして希望する会
(3)情報化委員会(中村情報委員長)
ザグレブ大会について報告があった。
・七月に開催された第二八回ISSR/SISRクロアチア・
者が責任をもって加えるのであれば申込は可能である。
・自由テーマパネルへの外国人(非会員)研究者の参加は、代表
(2)国際委員会(小田委員長)
今後も学術大会での発表や発言を認めないことを確認した。
準会員(購読会員)は入会に際して審査を行っていないので、
(1) 庶務委員会(田島委員長)
五、諸委員会からの報告と提案
長に決定したことが報告された。
佐藤選挙管理委員長より選挙の結果、星野英紀常務理事が会
四、会長選挙について
した。
石井選考委員長より審査結果の報告があり、報告通りに決定
三、日本宗教学会賞

秋に常務理事会を開き、早めに新委員を決定したいとの四月の時裏会に対話されていた。他の考慮会にていて	も、秋に常務理事会を開き、1隻り2月の時裏会で読まった。
いたが、也の委員会こつい	員は四月の理事会で承認され
る旨発表され、了承された。なお、従来、委	淳氏、会長とする旨発表され、
、ポール・スワンソン氏、鶴岡賀雄氏、林	岩弓氏(開催校)、ポール・スワンソン氏、
星野次期会長より、二〇〇六年度のプログラム委員を、鈴木	星野次期会長より、二〇〇六
安員について	一〇、委員会の新委員について
よされた。	ただくことが決定された。
鱼二夫氏、久我光雲氏に名誉会員になってい	本年度は、井門富二夫氏、久谷
	九、名誉会員
認された。	別記一四名が承認された。
	八、新入会員
	告された。
に開催予定であることが、同大学の鈴木岩弓常務理事より報	に開催予定であることが、同-
東北大学において、二〇〇六年九月一六日(土)~一八日(月)	東北大学において、二〇〇六年
人会について	七、次年度の学術大会について
	た。
の形成に向けて対応すべきであるとの提案があり、了承され	の形成に向けて対応すべきでも
点が説明された。今後、宗教学関連の学術研究団体の連合体	点が説明された。今後、宗教
宮家準日本学術会議会員より、新体制発足までの経緯と変更	宮家準日本学術会議会員より、
の新体制について	六、日本学術会議の新体制について
課題や意見があれば教示願いたい。	して、課題や意見があれば教言
今年度より導入した自由テーマパネル、特別テーマ部会に関	今年度より導入した自由テー
五(櫻井委員長)	(6プログラム委員会(櫻井委員長)

(866) 238

会	報
	報

一一、その他	・会長選挙の結果
会長選挙の際の情報のあり方について問題提起がなされ、常	・次年度の学術大会
務理事会で検討することとなった。	二、自由テーマパネル、特別テーマ部会導入に伴う課題につい
	て討議し、以下のような問題が論じられた。
○ A Η R残務委員会	・学会が主導する特別テーマパネルは、プログラム委員が責任
日 時 二〇〇五年九月九日(金)二〇時三〇分~二一時	者となり、司会を行うのが良いのではないか。
場 所 関西大学 第三学舎 第二会議室	・個人発表とパネルを同じ時間帯に行わずに分けた方がよいの
出席者 池澤優、市川裕、宇都宮輝夫、氣多雅子、島薗進、	かどうか。パネルに二種類の時間枠があるが、区別が必要か
鶴岡賀雄、星野英紀、山中弘、渡辺学	どうか。
議 事	・メーリングリストを作って、パネル作りをするシステムが出
一、委員長の選任	来ないか。
委員長に、島薗委員が選任された。	・公開シンポジウムと特別テーマパネルとの連携がうまく行っ
二、残務処理について	ていない。
鶴岡委員、市川委員、池澤委員より、書物の刊行など予定さ	・どの部会で発表することになるか、発表者側の希望を考慮で
れている残務について説明があり、具体的に検討していくこ	きないか。
とになった。	まれた。
〇評議員会	さオブ
日 時 二〇〇五年九月一〇日(土)一二時三〇分~一四時	〇『宗教研究』編集委員会
場 所 関西大学 第三学舎 五一一教室	日 時 二〇〇五年九月一〇日(土)一二時三〇分~一四時
出席者 八六名	場 所 関西大学 第三学舎 三四〇一教室
議事	出席者 樫尾直樹、河東仁、小池淳一、 白川琢磨、ポール・
一、諸報告	スワンソン、土井健司、長谷部八朗、藤原聖子、松
・会計報告	村一男(長)、山中弘
・日本宗教学会賞	

(867)

239

NII-Electronic Library Service

•

•

	・国際委員会
配付資料 大会	にいたこう 145 があった。 営等について質問と提言があり、今後の大会運営に反映させ
上興匡、	後、パネルと個人発表が並行して行われている点、パネル運
淳、藤臣	自由テーマパネル、特別テーマ部会の概要についての報告の
博、鶴岡	・庶務委員会
高田信	五、諸委員会報告
薗進、は	四、会計報告
樹、木	三、日本宗教学会賞について
出席者 池澤優	二、議長に小田淑子氏を選出
場所 関西大部	一、開会
日時 100-	議 事
〇丨AHR第一九日	成立した。
	数(委任状提出者を含む)三二六名、よって総会は
一二、閉会	出席者(大会参加会員数三三四名、定足数一一二名、出席者)
一一、島薗現会長の	場所 関西大学 第三学舎 四三〇二教室
一〇、名誉会員に	O分
九、次年度学術大会	日 時 二〇〇五年九月一〇日(土)一六時二〇分~一七時四
八、会長選挙の結果	O総会
七、日本学術会議開	
六、IAHR第一	いるが、大会紀要号は発表の分類別に掲載する。
・プログラム委員へ	・大会プログラムでは部会の中でパネルと個人発表が混在して
・編集委員の交代	定した。
・編集委員会	四
・情報化委員会	議事

一行						I 席 者	~~		À		`	`	Ň	次	会	Π	Ι	П
記付資料						者	所	時	H		閉会	島蘭	名誉	年度	長選	本学	A H	グラ
4 大会報告書(抜粋)、会計報告書	上興匡、山中弘、渡辺学淳、藤原聖子、星野英紀、堀池信夫、松村一男、村	博、鶴岡賀雄、中野毅、中牧弘允、長谷部八朗、林	髙田信良、田島照久、月本昭男、津城寛文、土屋	薗進、嶋田義仁、鈴木岩弓、ポール・スワンソン、	樹、木村武史、氣多雅子、櫻井義秀、澤井義次、島	池澤優、市川裕、宇都宮輝夫、小田淑子、樫尾直	関西大学 第三学舎 五一一教室	二〇〇五年九月一一日(日)一二時三〇分~一四時	AHR第一九回世界大会実行委員会	-	T	島薗現会長の挨拶、任期終了の委員についての報告	名誉会員について	次年度学術大会について	会長選挙の結果について、新会長の挨拶	日本学術会議関連事項	IAHR第一九回世界大会終了後の経過報告	ログラム委員会

(868) 240

会 報

会ホームページに掲載された。	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一	し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニン	レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。但	・総発表件数は一二八四件。登壇者数(パネル発表者・司会・	ウムが三二。ラウンドテーブルが七。	三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンポジ	・パネル(シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数は三	・参加国数は、六一ヶ国、二地域。	名が会場を訪れた。	開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七〇九	ト、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、公	九名)。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシスタン	二七名、国外七二名、合計九九名となっている(総計一七九	○○名に達し、その他同伴者としての登録参加者数が、国内	・登録参加者数は、国内一〇九二名、国外六〇八名、合計一七	告が行われた。	・本大会の登録参加者数、参加国数、発表数などについての報	②参加者数、参加国数および発表数(鶴岡プログラム委員)	大会報告書の構成内容や配布先についての説明が行われた。	①大会報告書の概要(池澤財務委員)	一、大会の報告・概要	講事
	二七七人。	二七七人。	二七七人。 グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニン	二七七人。 グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニンレスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。但	二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二七七人。 二十一、一二八四件。 登壇者数(パネル発表者・司会・ ウムが三二。 ラウンドテーブルが七。	三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンポジ三一、そのうちオーガナイズド・パネル発表者・司会・三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンポジ三二、二十年の人が七、	パネル(シンポジウム・ラウンドテーブルを含む) 二七七人。	参加国数は、六一ヶ国、二地域。 そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。 シスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを 総発表件数は一二八四件。登壇者数(パネル発表者 がえポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを し、公開シンポジウム・ラウンドテーブルを含む) プ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、 二七七人。	名が会場を訪れた。 そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。 デー。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。 ジムが三二。ラウンドテーブルが七。 レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを 総発表件数は一二八四件。登壇者数(パネル発表者 ジモーシンポジウム、プレナリー・セッション、 し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション し、公開シンポジウム、プレナリー・ 王二の 二七七人。	第シンポジウム聴講者、スタッフ、 名が会場を訪れた。 参加国数は、六一ヶ国、二地域。 ウムが三二。ラウンドテーブルが七 三一。そのうちオーガナイズド・パ ウムが三二。ラウンドテーブルが七 レスポンデント・コンヴィーナー・ レスポンデント・コンヴィーナー・ こ七七人。	 ト、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、 ト、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、 	九名)。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシス、 角シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七(開シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数、 デー。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シン、 ウムが三二。ラウンドテーブルが七。 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シン、 ウムが三二。ラウンドテーブルが七。 二、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	二七名、国外七二名、合計九九名となっている(総計一- 九名)。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシスト 、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、 開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七0 開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七0 名が会場を訪れた。 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンプ ウムが三二。ラウンドテーブルが七。 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンプ シスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む)総数 に、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブロ レスポンデント・コンヴィーナー・オブゼーバーを含む。 に、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブロ し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブロ し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、 1-11111111111111111111111111111111111	○○名に達し、その他同伴者としての登録参加者数が、□ 二七名、国外七二名、合計九九名となっている(総計一- 九名)。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシスト 、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、 解シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七 名が会場を訪れた。 差加国数は、六一ヶ国、二地域。 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンプ ウムが三二。ラウンドテーブルが七。 レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む 総数 に、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブロ グ・セッションは含まない)は、延ベー二三九人、実数 こ七七人。	〇〇名に達し、その他同伴者としての登録参加者数は、国内一〇九二名、国外六〇八名、合計 二七名、国外七二名、合計九九名となっている(総計一- 九名)。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシスト 、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、 開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七 名が会場を訪れた。 参加国数は、六一ヶ国、二地域。 参加国数は、六一ヶ国、二地域。 「ネル(シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シン。 ウムが三二。ラウンドテーブルが七。 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シン。 ウムが三二。ラウンドテーブルが七。 こ七七人。	告が行われた。 こ七七人。 こ七七人。 こ七七人。 し、公開シンポジウム、アレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、アレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、 し、と明シンポジウム、プレナリー・セッション、 し、 の開シンポジウム、 の供 の登壇者数 (パネル発表者・司ペ の の の の の の の た の の の し 、 の し 、 の や の し 、 の や の の ち の し し し て の ち の し 、 の の し 、 の の の し し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し 、 の し し 、 の し 、 の し し の し 、 の し 、 の し 、 の し し し 、 の し し 、 の し し 、 の し 、 の し 、 し し し し 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	本大会の登録参加者数、参加国数、 告が行われた。 登録参加者数は、国内一〇九二名、 日本名、国外七二名、合計九九名として こ七名、国外七二名、合計九九名として に本名、国外七二名、合計九九名として 「パネル(シンポジウム・ラウンドテーブルが七 三一。そのうちオーガナイズド・パ シスポンデント・コンヴィーナー・ し、公開シンポジウム、プレナリー し、公開シンポジウム、プレナリー し、公開シンポジウム、プレナリー し、公開シンポジウム、プレナリー	ションは含まない)は、辺 の が し、 た。 で た。 た の し、 た の た の た の た の た の た の た の た の た の た	すの構成内容や配布先につきの構成内容や配布先につきがれた。 このうちオーガナイズド・パンシンポジウム、一のうちオーガナイズド・コンヴィーキーの人工名、合計九九名として、たっちオーガナイズド・パント・コンヴィーテーブルが、一日券参加国数および発表数() し、その他同伴者として、 して、 して、 して、 して、 して、 して、 して、 </td <td>「「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」</td> <td>や 二 や 告 の 概 要 や 告 の 概 要 に つ 青 の 概 要 に 、 に 、 に 、 に 、 た の た 。 う ち れ た の た 。 う ち れ た の が の が た ら か ン に ら か し て た ・ の で か し た た ら の が た ら た の で か こ 、 つ か し て た ら か か し て た ら の が の で 、 た ら か つ た 、 の つ た ら つ か た ら つ か た ら つ か た ら つ か た い た の で の で た っ つ た い た の た の つ た の つ た の た の で か た の つ た の た の つ た の た の た の た の た の た の つ か た の つ つ た の つ つ た つ つ か た の つ つ た の つ つ つ た の つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ</td>	「「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」」、「」	や 二 や 告 の 概 要 や 告 の 概 要 に つ 青 の 概 要 に 、 に 、 に 、 に 、 た の た 。 う ち れ た の た 。 う ち れ た の が の が た ら か ン に ら か し て た ・ の で か し た た ら の が た ら た の で か こ 、 つ か し て た ら か か し て た ら の が の で 、 た ら か つ た 、 の つ た ら つ か た ら つ か た ら つ か た ら つ か た い た の で の で た っ つ た い た の た の つ た の つ た の た の で か た の つ た の た の つ た の た の た の た の た の た の つ か た の つ つ た の つ つ た つ つ か た の つ つ た の つ つ つ た の つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ
・実際の発表に即したプログラムの最終形態が、九月上旬に大		グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニン	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニンレスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。但	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニンレスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。但・総発表件数は一二八四件。登壇者数(パネル発表者・司会・	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブニンレスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。但・総発表件数は一二八四件。登壇者数(パネル発表者・司会・ウムが三二。ラウンドテーブルが七。	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は一レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。但レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。但ウムが三二。ラウンドテーブルが七。三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンポジ三一	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、 レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを 総発表件数は一二八四件。登壇者数(パネル発表者 ウムが三二。ラウンドテーブルが七。 こ一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。 パネル(シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、 ワムが三二。ラウンドテーブルが七。 テー。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。 モー。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。 を加国数は、六一ヶ国、二地域。	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、 がネル(シンポジウム、プレナリー・セッション、 と、公開シンポジウム・ラウンドテーブルを含む) がネル(シンポジウム・ラウンドテーブルを含む) し、公開シンポジウム・ラウンドテーブルを含む) もが会場を訪れた。	グ・セッションは含まない)は、延 グ・セッションは含まない)は、延 グ・セッションは含まない)は、延 が、公開シンポジウム、プレナリー し、公開シンポジウム、プレナリー し、公開シンポジウム、プレナリー	ゲ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は、公司シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数1000000000000000000000000000000000000	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は、小一ヶ国、二地域。 「キャンポジウム・ラウンドテーブルが七。 「シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数、 「シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数、 「シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数、 「シンポジウム・ラウンドテーブルを含む)総数、 「シンポジウム・ラウンドテーブルが七。 「シンポジウム、プレナリー・セッション、イブーレスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。 シンポジウム、、 「レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。 「シンポジウム、、 「レスポンデント・コンヴィーナー・オブガーバーを含む。 「シンポジウム、、 「シンポジウム、、 「レーン、 「シンポジウム、 「シンポジウム、 「シンポジウム、 「シンポジウム、 「シンポーン」 「シンポジウム、 「シンド・ 「シンポジウム、 「シンド・ 「シンポジウム、 「シンドシーン」 「シンド・ 「シンドシーン」 「シンド 「シンド<	グ・セッションは含まない)は、延べ一二三九人、実数は つくが三二。ラウンドテーブルが七。 シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七(開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七(開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七(開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七(常が会場を訪れた。 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンポ ラムが三二。ラウンドテーブルが七。 レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む)総数 に、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー し、公開シンポジウム、プレナリー・セッション、イブー	〇〇名に達し、その他同伴者としての登録参加者数が、 「 こ七名、国外七二名、合計九九名となっている(総計一- 九名)。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシスト 、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、 開シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七 名が会場を訪れた。 三一。そのうちオーガナイズド・パネルは二九二。シンプ シムが三二。ラウンドテーブルが七。 レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。 総発表件数は一二八四件。登壇者数(パネル発表者・司へ レスポンデント・コンヴィーナー・オブザーバーを含む。 総教 シンプレナリー・セッション、イブー	受録参加者数は、国内一〇九二名、国外六〇八名、実数は、公司シンポジウム、合計九九名となっている(総計一九名)。なおこれ以外に、一日券参加者、パネルアシスト、寄付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、スタッフ、報道機関など合計七00名に達し、その他同伴者としての登録参加者数は、六一ヶ国、二地域。 やい、一日券参加者、パネルアシスト、お付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、別シンポジウム聴講者、スタッフ、報道機関など合計七000000000000000000000000000000000000	ぜんしいがいがった。 し、公開シンポジウム、国内一〇九二名、国外六〇八名、合計の人気に達し、その他同伴者としての登録参加者数は、「日券参加者、パネルアシスト、、高付アトラクション関係のゲスト、書籍展示関係者、スタッフ、報道機関など合計七の人工名、国外七二名、合計九九名となっている(総計一・100名に達し、その他同伴者としての登録参加者数は、「日券参加者、パネルアシストン、「日券参加者、パネルアシストン、「「「」」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、「」、」、「」、」、「」、	本大会の登録参加者数、参加国数、 告が行われた。 こ こ 七名、国外七二名、合計九九名、 日 た、寄付アトラクション関係のゲス に た、寄付アトラクション関係のゲス た、寄付アトラクション関係のゲス に た、寄付アトラクション関係のゲス た、寄付アトラクション関係のゲス に た、寄付アトラクション関係のゲス た、 なおこれ以外に、一日券参加 し、公開シンポジウム・ラウンドテーブルが七 レスポンデント・コンヴィーナー・ し、公開シンポジウム、プレナリー	参加国数および発表数 (参加国数および発表数 (ションは含まない) は、延 ションは含まない) は、延 ションは含まない) は、延 ションは含まない) は、延 ションはきまない) は、延 ションはきまない) は、延 ションは、 二 の 他同伴者として た の の の た の た の の た の た の た の た の の た の た の の の た の た の た の た の た の た の の の た の の の の の た の た の の の の の の つ た た の の の つ た の た の の の の の の つ し た た の の の た の が ん た の が た の が た の た の の が た の の の た の た の の の た の の の た の た の の の た の た の の の の た の の の の た の の の の た の た の の の の の の の し た の の の の の の の た の つ た の の の つ た の の つ し た の の の つ た の の つ し た の の の つ し た の た の た の の の し た の の の の の の の の の つ し た の の つ し た の の つ の の の の の の の の の の つ の の の つ し た の の つ つ か ろ の つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ	青の構成内容や配布先につ 青の構成内容や配布先につ る数は、国内一〇九二名、 る計九九名と し、その他同伴者として おこれ以外に、一日券参加 国外七二名、合計九九名と たラクション関係のゲス シウム聴講者、スタッフ、 シンポジウム・ラウンドテーブルが七 のうちオーガナイズド・パ のうちオーガナイズド・パ し、六一ヶ国、二地域。 で、ラウンドテーブルが七 のゲス アレナリー・ シンポジウム、プレナリー	声の概要(池澤財務委員) 声の概要(池澤財務委員) 声の概要(池澤財務委員) 「ションは一二八四件。登壇者数、 ない、六一ヶ国、二地域。 「ションドテーブルが七 「ションは一二八四件。登壇者数、 ない、二日券参加 「ションドテーブルが七 「一、一丁一 「一、一丁一 「一、一丁一 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」 」	や男子の や男子の や男子の や男子 し、 その 構成内容や 配 市 の で で な た っ で し、 そ の 他 同 代 し、 そ の 他 同 代 一 の ち オ し、 そ の 他 同 代 一 の た の が た の で の か し た ら の か し た の た の た の た の た の で の た っ の か し た っ の か し た っ の か し た う つ ン た ら つ か し た っ の つ し た う つ ン た ら つ か し た ら つ つ た の つ つ た う つ ン た ら つ つ た ら つ つ た ら つ つ た ら つ つ た ら つ つ た ら つ つ た ら つ つ た の つ つ た の つ つ つ た の つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ つ

委員会で今後検討する(島薗実行委員長)。
・この書籍の日本語訳の出版可能性については、IAHR残務
をまとめた書籍が出版される予定(鶴岡プログラム委員)。
・IAHR本部の企画として、プレナリー・セッションの内容
② 出版
大会の報告と写真を、大会ホームページにて掲載予定。
①記録(市川総務委員)
四、大会のまとめについて
報告が行われた。
大会の全収入と支出の総額、ならびに各項目の詳細について
三、会計報告(池澤財務委員)
承認された。当委員会は日本宗教学会に属することとなる。
刊行などを行うためのIAHR残務委員会を設置することが
募金者への礼状と報告書の送付や、大会記録の編集、書物の
②IAHR残務委員会の設置
解散する。
・IAHR第一九回世界大会実行委員会は九月一一日をもって
された。
・九月二七日の日本学術会議内の組織委員会までの予定が報告
①今後の予定
二、大会後の経過と今後の予定(島薗実行委員長)

学会、神道史学会、神道	ン、関一敏、鶴岡賀雄、林淳、藤田正勝、山中弘、渡辺和子
・今回の宗教学研連の議	上良正、岩田文昭、櫻井治男(委員長)、
教研究諸学会連合を正	
究にかかわる連携会員	による庶務、国際、情報化委員会が発足した。
員会は、第二〇期日本	ことが星野会長より報告され、承認された。同日より新委員
円ずつ拠出し、当面の	以下の各氏に、庶務、国際、情報化委員会の委員を委嘱した
長は星野英紀日本宗教	一、各種委員会の新委員について
員とすることとし、事	議事
学分野)、前・現日本字	治郎、星野英紀、山中弘
た。準備委員会委員は、	次、島薗進、ポール・スワンソン、土屋博、中村廣
ことが承認され、その	出席者 小田淑子、金井新二、氣多雅子、佐藤憲昭、澤井義
・宗教学研連廃止後、「ロ	場所 大正大学 一号館 会議室二
検討していくことにな	日 時 二〇〇五年一〇月二九日(土)一三時三〇分~一五時
告があり、今後、日本	○常務理事会
究団体連合体の立ち上	
て協議された「宗教学	課題点について新委員会で検討することとなった。
九月二七日に行われた	のアンケートや評議員会、総会で提示された意見を踏まえ、
二、日本学術会議の経過	一、本年度と次年度の委員で引き継ぎを行った。今回の大会で
ズ・ハイジック、蓑輪	議事
石井研士、小川順敬、	スワンソン、鶴岡賀雄、星野英紀
・情報化委員会	田島照久、二〇〇六年度委員―鈴木岩弓、ポール・
原和男、渡辺学	出席者 二〇〇五年度委員-小田淑子、櫻井治男、島薗進、
仁、田島忠篤、月本昭日	場所 関西大学 第三学舎 三四〇三教室
池澤優(委員長)、奥山	日 時 二〇〇五年九月一一日(日)一四時~一五時三〇分
・国際委員会	〇プログラム委員会

った。 報告 男、深澤英隆、マーク・マリンズ、吉 学術会議連携会員の決定後に、宗教研 準備委員会を発足させることが決定し □本宗教研究諸学会連合」を創設する **丗連廃止後における宗教学関連学術研** 第一九期宗教学研究連絡委員会におい 倫明、 **道宗教学会、日本印度学仏教学会、日 事要旨を、関連七学会(キリスト教史** 式に発足させる。 をも含めて開催し、あらためて日本宗 **爭務費用にあてることにする。準備委** 字会会長に依頼する。八学会から二万 務局は日本宗教学会事務局、準備委員 け」に関して、星野会長より以下の報 **巽**量、弓山達也、 吉永進一 曖井義秀、中野毅 (委員長)、ジェーム 尓教学会会長、第一九期宗教学研連委 示教研究諸学会連合の活動等について さしあたり日本学術会議会員(宗教 川橋範子、 澤井義次、 嶋田義

(870) 242

報

会

本基督教学会、日本道教学会、日本仏教学会)の代表者に郵本基督教学会、日本道教学会、日本仏教学会、日本仏教学会)の代表者に郵本基督教学会、日本道教学会、日本仏教学会)の代表者に郵

NII-Electronic Library Service

東京大学先端科学技術研究センター特任研究員

画像データには創刊号から三三九号までのすべての論文が画このたび『宗教研究』全論文の画像データと、それらの書誌でしてい録しました。このDVDを、希望する会員に、無がしたします。但し、配布可能なDVDに枚数制限があるため(六〇〇枚)、希望者の先着順に配布します。 情報化委員会での「宗教研究」デジタル・データ配布に関する案内	柳藤家本合執	 柳藤家本合執 か慎あ筆 お太正ん仁者 奈る郎芳り司ろ
像としてPDFファイルで、書誌データには掲載された論文、画像データには創刊号から三三九号までのすべての論文が画	井林田	克 香 征 奈
よび「一太郎」のファイル形式で、保存されています。講演、展望、書評などの書誌に関するデータが「エクセル」お	島鶴	賀 進 雄
については学会ホームページ(wwwsoc.nii.ac.jp/jars/)にも本データは、複製を妨げるものではありません。なお、本件	保 古 呂 澤	篤 有 彦 峰
・申込方法掲載してあります。	星 近 川 藤	啓 慈 剛
上、学会事務局にお申込下さい。件名は「宗教研究DVD希望」とし、氏名と住所をご記入の	長 大 澤 熊	壮 平 玄
軍子メール ja-religion@mub.biglobe.ne.jp ◎ ○三−五六八四−五四七四	真 小 野 池	俊 淳 和 一
・配布時期 ・配布時期 二〇〇五年一二月から二〇〇六年一月末日まで。	島田	裕巳
二〇〇六年二月より順次発送いたします。		

和 平 玄 慈剛彦峰進雄征奈る郎芳 り 司 筑波大学教授 筑波大学大学院 神戸国際大学非常勤講師 東洋大学大学院 横浜市立大学非常勤講師 東北大学大学院 工学院大学非常勤講師 国立歴史民俗博物館助教授 西田幾多郎記念哲学館専門員 大正大学教授 筑波大学助教授 東京大学大学院 東京大学教授 東京大学教授 日本学術振興会特別研究員 国際基督教大学教授 同志社大学教授

(872) 244

슾 報

	2004 年度 日	本宗教学会 決算報告	
<収入>		<支出>	
会費	16,741,65	0 会誌直接刊行費	6,347,124
賛助会費	840,00	0 会誌発送費	1,356,565
会誌売上金	40,50	0 編集諸費	406,918
第63回大会参加費	301,60	0 第 63 回大会費用	2,200,000
出版助成金	1,700,00	0 日本宗教学会賞賞金	0
岸本•諸戸•石津•堀•増谷	子•	学会賞諸費	113,450
柳川•玉城 基金利子	14	8 選挙関係費	439,106
預金利子	6	5 会合費	1,196,081
著作権使用料	125,543	3 通信連絡費	871,100
前年度繰越金	1,622,06	8 事務用品費	251,588
		印刷費	318,257
		本部費	4,978,960
		関係学会費	112,444
		事務所費	1,501,122
		ホームページ管理費	25,755
		名簿作成費	772,643
		次年度繰越金	480,461

計 21,371,574

計 21,371,574

日本宗教学会 予算案 2005 年度

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
<収入>		<支出>	
会費	16,800,000	会誌直接刊行費	6,500,000
賛助会費	840,000	会誌発送費	1,200,000
会誌売上金	30,000	編集諸費	400,000
第64回大会参加費	1,431,000	第64回大会費用	2,270,000
出版助成金	1,800,000	∫内訳:開催校大会運営費	2,200,000]
岸本•諸戸•石津•堀•増谷		本部大会運営費	70,000
柳川•玉城 基金利子	145	日本宗教学会賞賞金	200,000
預金利子	50	学会賞諸費	200,000
前年度繰越金	480,461	選挙関係費	400,000
		会合費	1,150,000
		通信連絡費	800,000
		事務用品費	250,000
		印刷費	350,000
		本部費	5,000,000
		関係学会費	100,000
		事務所費	1,500,000
		ホームページ管理・	
		データベース作成費	400,000

予備費

計 21,381,656

計 21,381,656

661,656